

令和 4 年 2 月 25 日

教 育 長 様

研究コース	
グループ研究 A	
校園コード（代表者校園の市費コード）	
732665	
選定番号	153

代表者 校園名： 大阪市立墨江丘中学校
 校園長名： 林 憲治郎
 電 話： 06-6674-3612
 事務職員名： 尾上 綾香
 申請者 校園名： 大阪市立墨江丘中学校
 職名・名前： 首席・橋口徳治
 電 話： 06-6674-3612

令和3年度 「がんばる先生支援」研究支援 報告書

◇令和3年度「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	グループ研究 A	研究年数	新規研究（1年目）
2	研究テーマ	学びに向かう力の育成を土台とした武道授業の在り方			
3	研究目的	<ul style="list-style-type: none"> ・体育の、見方・考え方を働きかせ、体力の向上と達成感を味わうことができる生徒の育成 ・複数武道種目(柔道・なぎなた) の授業を通して特性を理解し安全に配慮する態度を養う ・個から集団での学びを通して他者を理解する生徒の育成 ・伝統的な行動の仕方を考え、日常生活の中で活かせる能力を養う ・学習評価の充実 ・教科・種目の本質をとらえた授業づくり研究会を開催 ・研究会の開催により保健体育以外へも教科横断的に指導力を向上する ・公開授業を通して大阪市全体へ「安全で楽しい武道授業」を発信する 			
4	取り組んだ 研究内容	<p>いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。（MSゴシック 9.5pt イント）</p> <p>令和3年6月 ○体育科教員になぎなた講習会の実施（全日本なぎなた連盟より講師派遣） 体育科教員となぎなた連盟の講師と授業カリキュラムづくり 中学校1学年から武道の中でも「差」がない武道授業の展開について、各武道の専門的に取り組んでいる先生から報告</p> <p>令和3年6月 ○コロナ禍の中の保健体育科 教育課程武道授業の在り方について、全日本なぎなた連盟とオンラインミーティング 中学1年生の授業時間数とカリキュラム作成の意見交換を実施</p> <p>令和3年7月 ○日本武道館、全日本なぎなた連盟と武道授業の在り方についてのオンラインミーティングを開催 日本武道館からも武道授業での教えるべきことについての助言をいただいた。</p> <p>令和3年8月 ○なぎなた授業カリキュラム 1年生～3年生のカリキュラム作成（案） 1学年、2学年のカリキュラム構成のミーティング ○中学校1年～3年生までのなぎなたカリキュラム作成</p> <p>令和3年9月 ○全日本なぎなた連盟研究授業についての教職員実技研修会</p> <p>令和3年10月○日本武道館・全日本なぎなた連盟視察 武道授業の動きについての意見交換 これからの武道授業の在り方について「なぎなた」授業研究発表会</p> <p>令和3年10月○本校なぎなた授業に対する意見交換会 ホテルアヴィーナ開催</p> <p>令和3年10月○本校文化祭にて、2年生対象に「なぎなた新聞」の展示作品を作成</p> <p>令和3年11月○剣道授業となぎなた授業の安全面に対する比較研究会を実施</p> <p>令和3年11月○なぎなた連盟主催のなぎなた実技講習会 本校体育科教員2名参加・（千葉県勝浦）</p> <p>令和3年11月○なぎなた授業に対するイメージアンケート+授業アンケートを実施</p> <p>令和4年1月○本校なぎなた授業 導入のための動画作成 生徒+教員で作成</p> <p>令和4年1月○次年度に向けての準備として、体育大会で「リズムなぎなた」ダンス領域と武道の融合をし、発表作品についての体育科ミーティングを開催</p> <p>令和4年2月○本研究発表会 アンケートの実施 まとめ 次年度に向けての課題作成</p>			

	研究発表等の日程・場所・参加者数	研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。					
5		日程	令和 4 年 2 月 21 日		参加者数 約 55 名		
		場所	大阪市立墨江丘中学校 多目的室				
	備考 他校教職員・全日本なぎなた連盟・日本武道館からオンライン参加						
	大阪市教育振興基本計画に示されている、 <u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上および教員の資質や指導力の向上</u> について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。						
	<p>【見込まれる成果1】 大きな事故、怪我の多い武道指導において安全で安心した体育授業の実施を行う。</p> <p>《検証方法》 保護者、生徒の安全で安心した授業内容であったという項目について90%以上の安心安全な授業結果にする。</p> <p>〔検証結果と考察〕 保護者、生徒に対する武道授業に対するアンケートについて、中学校2年生対象にアンケートを実施。生徒は1年時に柔道の授業を受講しており、柔道となぎなたに対する授業比較をおこなった結果、安全面ではなぎなた授業の方が安全であるという回答が83%という結果となった。コロナ禍の中での柔道、相撲、空手等の組手が実施しにくい中であることもあり、保護者から武道単元の選択としてなぎなたについても好評をいただいた。安全面、指導者の指導経験なども含めてより安全な武道授業について指導者の選択肢を増やすための環境設定が必要となってくる。</p>						
	<p>【見込まれる成果2】 武道指導の苦手な教員への指導の選択肢となるような授業案の提案を行い、大阪市に新たな武道指導を広める。</p> <p>《検証方法》 研究授業、研究発表会において、なぎなた指導を実施したいという肯定的項目を70%以上の回答にする</p> <p>〔検証結果と考察〕 公益財団法人日本武道館と全日本なぎなた連盟に依頼し、武道授業の在り方について研究授業、研究発表会を行った。生徒に教えるという立場である教員が、コロナ禍もあり「教える」教育ではなく、共に育つ「共育」実践を繰り返す姿勢がこれらの教師と生徒との教育の場で必要になってくることを共通認識できた。授業では、なぎなたの授業をやりたい、さらに深くやってみたいという肯定的回答が2年生全体の82%とあり、運動格差の観点からもなぎなた授業での導入は今までにない授業展開となった。今後もさらに武道での共通項、柔道、なぎなた、相撲の武道授業の在り方について追及していくことが必要であると考える。</p>						
6	<p>【見込まれる成果3】 武道指導の目的である、伝統文化礼儀、礼節も含める規範意識の向上につながる。</p> <p>《検証方法》 生徒アンケートにおいて、自分は学校のルールを守っているという規範意識の項目について前年度より2ポイント以上上昇させる。</p> <p>〔検証結果と考察〕 武道授業の展開の中で特に押さえておくポイントは「道」という領域であった。ヨーロッパスポートが大半である中で、日本特有の武道という「道」を教える文化は武道授業においては共通するものであった。日本文化の和室文化など、礼節への「なぜ」を追求することにより「文化」「伝統」を伝承することの大切さを教ることができた。そうした中から、学校のルール、規範指導では、学校アンケートの中で生徒95%・保護者97.2%「守っている」という肯定的意見として前年度より5.1%上昇する結果となった。</p>						

6	成果・課題	<p>【見込まれる成果4】</p> <p>なぎなた授業の実施を行い、日本の伝統的武道になぎなたという種目があることの理解を促し、なぎなた普及に努める。</p> <p>《検証方法》</p> <p>活動前と活動後において生徒アンケートを実施し、なぎなたについて初めて知った、なぎなたに触れたという生徒の調査を行う。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>武道授業の中での「なぎなた」授業についての意識調査の結果、96%の生徒はなぎなたをやったことがないという回答だった。中には「ちはやぶる」という映画の中で取り扱われていることから「なぎなた」については知っている生徒がいた。教職員も全員がなぎなたの授業を受けたこともない教員ばかりであり、なぎなた授業についての授業展開については苦戦したが、なぎなた連盟の完全なフォローがあり実施することができた。</p>
		<p>【見込まれる成果5】</p> <p>大阪市全市研究発表会において体育授業の課題点を明確にし、今後の体育授業の在り方を明確にする。</p> <p>《検証方法》</p> <p>大阪市全市保健体育科教育研究発表会において体育科教育の課題点を質問紙アンケートを用いて調査研究を行う。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>大阪市全市保健体育科教育研究発表会については、全日本武道連盟の武道授業研究発表会と重なったため、全日本武道連盟の研究発表会で発表となった。武道館、全日本なぎなた連盟、大阪市の体育科教員が参加する形で、2年生生徒40名と研究授業を行い、その中からなぎなた授業に対するつまずきをアンケート収集した。体育科教員の中でもなぎなた授業を実施するまでの準備物、指導内容に対する不安、経験不足が今後の大きな課題としてあがったため、本研究を通じてなぎなた授業の授業カリキュラム、各学年9時間でのカリキュラム構成を行った。</p> <p>【研究全体を通した成果と課題】 具体的に記載してください。</p> <p>武道の種目は、柔道、剣道、相撲、空手道、なぎなた、弓道、合気道、少林寺拳法、銃剣道を示し、わが国固有の伝統文化に触れるなどを保健体育授業における武道指導で求められている。大阪市では柔道・剣道以外の他種目は中学校ではほとんど選択されていない現状から、感染症の拡大もあり、武道授業の共通している部分を各専門の教員から調査しました。その中でなぎなたは、柔道・剣道と同じ対人競技であるが、なぎなたが2m10cm～2m25cmの長物であり、「間合」が遠く、ボディ接触が少ないと、剣道とは異なり、動きが左右対称シンメトリーであること、なぎなたは経験者が少なく、授業者も生徒もほぼ初心者であること、など柔道・剣道の選択とは違った生徒の様子があった。今後、柔道、剣道の種目以外の種目を選択するための課題として「指導者の育成」（未経験）「用具、施設の課題」「運動量の確保」が上げられる。実際に体育科教員の中でも大学等の授業でもなぎなたの授業を実施している学校は少なく、互いに学びあう前の安全面についての確保をより一層高めるためには幼少期からの経験者を増やしていくことが必要だと考える。</p> <p>《代表校園長の総評》</p> <p>日本武道館は平成28（2016）年度、中学校武道必修化に関する調査で大阪市立中学校130校において武道授業の選択は、1番多くの89.2%（116校）が柔道、2番目に13.1%（17校）が剣道、3番目に2.3%（3校）が、なぎなたであったと報告がある。本研究では「武道」授業での共通している部分の整理をする中で、体育科教員の指導力の向上や発表会という緊張感から調査研究する環境が教材研究、指導力の資質向上に大きくつながった。その中で課題として中学校武道授業は体育教師の「指導困難感を無くしていく」ための方策が必要であるとみえてきた。「武道」必修化の経緯から、専門家が安全で「武道」の神髄や日本の伝統的な行動の仕方を伝えるべきとも言えるが、中学校では、体育教師は様々な体育種目を一人で教えなければならず、必ずしも武道経験者ではないので、安全で安心した武道授業にするための武道種目の選択肢を増やし充実させていくことも今後必要である。</p>